



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月5日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 東
 コード番号 7458 URL <https://www.dkkaaraok.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	35,492	1.9	5,270	△1.5	5,593	△3.9	3,568	△6.3
2019年3月期第1四半期	34,839	2.6	5,349	△3.7	5,817	△0.0	3,808	1.3

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 3,510百万円(△9.7%) 2019年3月期第1四半期 3,886百万円(2.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	62.99	62.90
2019年3月期第1四半期	66.86	66.79

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	183,940	132,985	71.4
2019年3月期	188,814	132,636	69.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 131,308百万円 2019年3月期 130,915百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	56.00	—	56.00	112.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	56.00	—	57.00	113.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	70,500	1.0	9,300	△11.2	9,800	△12.7	6,200	△14.5	109.39
通期	145,900	1.4	20,200	2.7	21,200	1.5	13,100	△16.0	231.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年3月期1Q	57,234,200株	2019年3月期	57,234,200株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年3月期1Q	557,762株	2019年3月期	580,290株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年3月期1Q	56,655,138株	2019年3月期1Q	56,967,953株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年6月30日、以下「当第1四半期」という)におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、緩やかな回復基調が継続するものの、米中貿易摩擦の深刻化による世界経済の減速懸念が高まるなど、依然として先行き不安定な状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、ナイト市場は引続き漸減傾向で推移しており、カラオケボックス市場は都市部での大手チェーンを中心とした出店は堅調であったものの、郊外立地店舗等での閉店がこれを上回る状況で推移しております。一方、エルダー市場においては、カラオケ活用が介護予防や健康増進につながることへの認知が広がり、市場は順調に拡大しております。

このようななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第1四半期の業績は、カラオケ・飲食店舗事業が好調に推移したことなどにより、売上高・利益とも計画を上回る水準となり、売上高は第1四半期における過去最高となる35,492百万円(前年同期比1.9%増)、営業利益は5,270百万円(同1.5%減)、経常利益は5,593百万円(同3.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、3,568百万円(同6.3%減)となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	34,839	35,492	652	1.9%
営業利益	5,349	5,270	△79	△1.5%
経常利益	5,817	5,593	△224	△3.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,808	3,568	△239	△6.3%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、引続き営業資産の買収を含めた機器賃貸件数の拡大と旧機種から新機種への入替え促進による安定的収益基盤の強化に努めるとともに、ミュージックビデオやLIVE映像の独占配信など、カラオケDAMの商品力強化に注力いたしました。エルダー事業におきましては、コンテンツの充実と営業体制の強化を図り、稼働台数の拡大に注力いたしました。

また、「LIVE DAM STADIUM」に代わるフラッグシップモデル新商品の今秋発売を4月に発表しております。

以上の結果、機器賃貸件数は順調に拡大したものの、発売から4年が経過した「LIVE DAM STADIUM」の商品出荷が軟調に推移したことにより、売上高は前年同期比3.9%の減収となり、営業利益は前年同期比11.0%の減益となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	16,224	15,598	△626	△3.9%
営業利益	4,375	3,893	△482	△11.0%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、優良立地への出店と、顧客満足度の向上によるブランド力強化に努めました。当第1四半期にはカラオケ5店舗、飲食5店舗を出店して業容拡大を図ると同時に、5月にはビッグエコー全店でスマホ決済サービス8種類を導入するなど、お客様の利便性向上に努めました。また、引続き採用及び教育体制を強化し、提供するサービス品質の向上に努めております。

以上の結果、10連休となったゴールデンウィークを含め、既存店が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比5.6%の増収となり、営業利益は前年同期比22.2%の増益となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	14,719	15,549	830	5.6%
営業利益	1,358	1,659	300	22.2%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、当社グループネットワークを積極的に活用するなかで、引続きヒット曲の創出、新人アーティストの発掘に努め、一定の成果を収めました。また、業績不振が続く子会社の事業基盤強化のため、組織再編に着手いたしました。

以上の結果、売上高は前年同期比10.5%増収となり、営業利益は42百万円の増益となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	1,871	2,068	196	10.5%
営業利益	3	46	42	—

(その他)

当事業におきましては、「ザ・パーク」ブランドで展開するコインパーキング事業の拡大に努めるほか、コンシューマー向けストリーミングカラオケサービスなども堅調に推移いたしました。

以上の結果、パーキング事業収入等の増加により売上高は前年同期比12.5%の増収となり、営業利益におきましては、前年同期比11.3%の増益となりました。

	(百万円)			
	前第1四半期	当第1四半期	対前期増減	増減率
売上高	2,023	2,275	252	12.5%
営業利益	373	415	42	11.3%

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4,874百万円減少し、183,940百万円となりました。

これは主に、流動資産の現金及び預金が5,048百万円減少したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ5,223百万円減少し、50,954百万円となりました。

これは主に、流動負債の支払手形及び買掛金が554百万円、未払法人税等が4,138百万円、賞与引当金が568百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ349百万円増加し、132,985百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加3,568百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,172百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月13日に発表いたしました第2四半期連結累計期間および通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	57,182	52,134
受取手形及び売掛金	5,205	5,031
たな卸資産	5,464	4,939
その他	6,762	7,470
貸倒引当金	△133	△146
流動資産合計	74,482	69,429
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	9,108	9,153
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	19,462	19,327
土地	39,794	39,794
その他（純額）	7,249	7,266
有形固定資産合計	75,614	75,541
無形固定資産		
のれん	3,407	3,256
その他	6,944	7,189
無形固定資産合計	10,351	10,445
投資その他の資産		
投資有価証券	4,849	4,600
敷金及び保証金	14,976	15,253
その他	8,612	8,739
貸倒引当金	△71	△69
投資その他の資産合計	28,366	28,524
固定資産合計	114,332	114,511
資産合計	188,814	183,940

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,469	2,914
短期借入金	3,264	3,289
1年内償還予定の社債	6,500	6,500
未払法人税等	6,030	1,892
賞与引当金	1,156	588
その他	12,689	12,994
流動負債合計	33,111	28,179
固定負債		
長期借入金	11,890	11,617
役員退職慰労引当金	909	816
退職給付に係る負債	6,670	6,770
その他	3,595	3,571
固定負債合計	23,066	22,775
負債合計	56,178	50,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,003	4,003
利益剰余金	117,709	118,078
自己株式	△2,986	△2,870
株主資本合計	131,077	131,561
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	814	725
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	47	19
退職給付に係る調整累計額	△289	△263
その他の包括利益累計額合計	△161	△253
新株予約権	302	240
非支配株主持分	1,417	1,436
純資産合計	132,636	132,985
負債純資産合計	188,814	183,940

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	34,839	35,492
売上原価	21,075	21,672
売上総利益	13,763	13,820
販売費及び一般管理費	8,414	8,550
営業利益	5,349	5,270
営業外収益		
受取利息	23	5
受取協賛金	85	82
為替差益	186	—
その他	242	304
営業外収益合計	537	393
営業外費用		
支払利息	40	37
為替差損	—	5
その他	29	26
営業外費用合計	69	70
経常利益	5,817	5,593
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	61	—
特別利益合計	62	0
特別損失		
固定資産処分損	19	29
減損損失	2	9
投資有価証券売却損	—	62
特別損失合計	22	101
税金等調整前四半期純利益	5,858	5,491
法人税、住民税及び事業税	2,071	1,957
法人税等調整額	△42	△68
法人税等合計	2,028	1,888
四半期純利益	3,829	3,602
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	33
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,808	3,568

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	3,829	3,602
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50	△89
為替換算調整勘定	△16	△28
退職給付に係る調整額	23	25
その他の包括利益合計	56	△91
四半期包括利益	3,886	3,510
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,865	3,477
非支配株主に係る四半期包括利益	20	33

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	16,224	14,719	1,871	32,816	2,023	34,839	—	34,839
セグメント利益 (営業利益)	4,375	1,358	3	5,737	373	6,111	△761	5,349

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、不動産賃貸及びパーキング事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△761百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	15,598	15,549	2,068	33,217	2,275	35,492	—	35,492
セグメント利益 (営業利益)	3,893	1,659	46	5,599	415	6,014	△744	5,270

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、不動産賃貸及びパーキング事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△744百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。